

指導される力

長久手市立長久手中学校

三年 江口 結乃

「あの先生は教え方がうまいよね」「あの先生に教えて欲しかったな」「今の先生のあんなってくれたらな」そんな感じで、夏になったら自然とセミの声が聞こえてくるように、周りの人の会話は聞きたくなくても、結構耳に入ってくるものです。

新学期にもなるとあの先生が良いとかこの先生は嫌だとかでみんなの会話も弾みます。自分も同じで正直苦手な先生もいて、新学期はどの先生になるか、期待と不安が心の中にあります。

私の不安そうな様子を察したのが、父が話しかけてきました。「今度の先生はどんな人なの」「まだ決まってるの」と聞かれ、「知らない」と一言だけ返しておいた時、父がこんな話をしました。「お父さんが高校に入学した時、部活に必ず入らないといけなくて、部活をやりたくなかったお父さんは仕方なく

写真部と科学部に行ったんだ。理由は楽しそうだなと思ったから。科学部に行った時に、白衣を着たいかにも科学者っていう先生がいたんだ。お父さんの他にも何人か体験の人達がいる、その体験の僕達に向かってこう言ったんだ。ペットボトルロケットを飛ばしに行こうって。ペットボトルロケットは知っていたけど飛ばしたことがなかったから少し楽しみだったんだ。外に連れられて白衣の先生がロケットを飛ばす準備をやっている姿をただただ見ていたんだ。準備が終わって先生が目を輝やかせて、さあ飛ばすぞって言って自転車の空気入れみたいなポンプを上下に動かしたら、そのうちペットボトルが空高く飛び上がって、みんなで拍手したんだ。」突然の昔話に私は興味なく聞いてました。「なかなかその実験が楽しくて科学部に入りますって白衣の先生に伝えたら、とってもうれしそうに、ありがとう。なんて言ってたな。でもそれ以来科学部には顔も出さずとうとう高校卒業しちゃった。あの白衣の先生はいっぱい準備してくれてたんだろうなって今になって思うんだ。

新入生がどれだけ楽しんでくれるか、どうしたらここの部活を気に入ってくれるのかと物の準備だけでなく、心の準備もしていて相当な時間をかけてきつと僕たちの為に準備してくれてたんだろうなって。「その父の話を聞いて私は思いました。クラスで配られる色々な書いてある用紙も、一年でまとめると厚さ十センチに満たないくらいだけど、そこにはきつと作成する先生の時間と労力と思いがつまっている、毎日の授業も先生達の準備とかがつまっている。どの先生も生徒のことを思い前に立ってくれているんだなと。あの先生が良いとか悪いとかいう前に自分達指導される側がその思いを理解するというのもまた生徒の大事な役割なんだなと思いました。授業が終わった後に「先生楽しかったよ」なんて言えたら先生も喜んで更に良い授業をしてくれるのだろうと、そしたらクラスの雰囲気は良くなるはずですよ。

最近の子供の自主性とか言っていて好きなようにやらせてくれる大人が増えていますが私達子供はまだまだ教えられる側なので、「あの

先生のほうがよかったな」などいう前に、まず私達教えられる側が指導される力と心を持つことも大事だと思います。

私の父も指導者です。たくさんの人に空手を指導しています。父は毎日、その日の道場練習に向けて、どんな風に指導し進行していくか家にいる時考えています。こんな感じでやったらどうかかとよく私に聞いてきます。もちろんたくさん準備していても、うまくいかなかったりするときもあります。日々の中で指導する側の思いをよく目にする私は、感謝をもって指導されなくてはいけないとも思います。

自分が大人になって社会に出て仕事するようになつた時に、自分も誰かに何かを教える時が来ると思います。指導する立場になる時のために、今指導される力を身につけ、相手の立場に立って指導できる人になりたいです。